

# 平成28年度 学校自己評価システムシート（県立新座高等学校）

目指す学校像	みんなの心が共に響きあう学校
--------	----------------

重点目標	人として信頼され、志をもった生徒を育成する 1 確かな学力を身につける学習システムの下、すべての生徒が学ぶ喜びを実感する 《 学力の向上 》 2 一人一人の生徒に徹底的に寄り添い、多様な生徒の進路希望を実現する 《 自己実現の醸成 》 3 地域社会と連携し、チームとしての学校力の向上を果たす 《 開かれた学校づくり 》
------	--

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	10名
	事務局（教職員）	12名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価				
年 度 目 標					年 度 評 価 (1月20日現在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校関係者からの意見・要望・評価等
1	○基礎学力の定着	・基礎学力の定着により、学ぶ意欲を向上させる	①少人数クラス編成、習熟度別授業展開、幅広い選択教科科目による授業の実施 ②学習サポーターを活かした基礎学力の養成	・成績不振者数が減少しかたか、また、優良者数が増加しかたか(昨年度比)	・基礎学力の定着に向け、日々、粘り強く学習指導を実施した。 ・成績優良者数は昨年度同数(1, 2学期)不振者数は微増(20名)	B	・成績優良者数増加と、成績不振者数の減少を更に進める必要がある。 ・協同学習をすすめるとともに、校内勉強会(考査前)を活用し、家庭学習の定着をさせる。	平成29年2月14日	・小中学校までは、勉強とは疎遠だった子どもが、高校3年生の時、1日中勉強するようになり、きっかけを与えてくれた教員への感謝と、結果を出せたことに対することに感謝したい。 ・家庭学習の定着は小中でも共通のテーマ。学力についても、教師が責任を持つことが重要。 ・なかなか自学自習の定着は難しいので、小テストを毎週行い、褒められることで、やる気を出させるなどの工夫が必要であると思う。 ・テスト1週間前には計画を作成させる等の意識づけが大切。また、自習室など、学校で勉強できる環境を用意することも大切。
	○個別の支援が必要な生徒への指導	・深い生徒理解により、個別のニーズを探る	・特別支援教育推進委員会を核とした、生徒理解のための研修会や情報交換の実施	・研修会や情報交換会が適切に行われ、生徒理解が進んだか	・必要に応じて、生徒情報の交換し、生徒理解を行った。 ・近隣小中学校、特別支援教育課などを招いた特別支援・教育相談研修会を実施した。(1月)	A	・生徒理解を引き続き行い、個別のニーズを把握する必要がある。 ・研修会等を活用し、生徒情報をスムーズに共有し、個に応じた指導(キャリアサポート等)を進める。		
	○授業の工夫・改善の推進	・授業の工夫・改善により、学習意欲を向上させる	①授業研究プロジェクト委員会を核とした、授業研究会や授業公開の実施 ②進路指導の一環とした、各種コンクールや資格取得の積極的な奨励	①研修会や授業公開が計画通り実施されたか。また授業アンケート等で満足度が増加しか(昨年度比) ②各種検定の受検者数が増加しか(前年度比)	・学習意欲を向上させるための授業の工夫・改善を行った。 ・研修会、授業公開を計画通り実施(6回)アンケート結果における「分かりやすい」の回答は約7割。 ・各種検定の受検者数はほぼ横ばい(前年度比)	B	・授業の工夫・改善を引き続き行い、学習意欲を一層向上させる必要がある。 ・研修会、授業公開を計画通り実施し、授業に最大限生かす。 ・各種検定の受検者数が増えるように、進路指導を踏まえながら、様々な角度から、積極的にアナウンスする。		
2	○基本的な生活習慣の定着及びコミュニケーション力の向上	・基本的な生活習慣の定着を図るとともに、コミュニケーション力を向上させる	①遅刻指導、整容指導、登下校指導、自転車マナー指導の学校全体での実施 ②生活委員会を中心とした欠席・遅刻防止運動の実施及び個別指導の徹底 ③体育祭・文化祭等における生徒主体の取組への支援	①整容指導等を計画通りに実施したか ②欠席数や遅刻数が減少しか(前年度比) ③生徒が主体的に学校行事に参加し、満足度が増加しか	・整容指導を計画通り実施(5回) ・欠席数や遅刻数が減少したか(前年度より若干減少) ・学校行事の充実度が83.2%となっており、学校行事等を通して、コミュニケーション力が育まれた。	A	・コミュニケーション力を含めた、基本的な生活習慣の定着を高める指導を継続する必要がある。 ・整容指導を徹底する。 ・各クラスにおける日々の指導のほか、朝の校門指導、街頭指導等を行う。 ・部活動や学校行事への積極的な参加を奨励する。	平成29年2月14日	・新座高校は良くなっている。学校として、統一かつ徹底した生活指導の成果であると考えている。今後も、これまでの生活指導の徹底を図ってほしい。 ・高校はやはり、出口の保障としての進路指導が大切であるので、しっかりとした系統立てた進路指導が必要で、結果を出すことが重要である。 ・1年生から夏休みに、オープンキャンパスに行かせる等、大学の入試に関し、早くから大学入試の条件などの情報を得るためにも、積極的に生徒に働きかける取組を今後も一層増やしていただきたい。
	○規範意識及び自己管理力の向上	・規範意識を高め、時間の管理能力等の自己管理能力を向上させる	①チャイム着席、挨拶励行の徹底を図る ②携帯電話等の使用に係るモラル向上の指導 ③社会貢献活動や体験活動を通じた人間関係の構築	①生徒指導件数が減少したか(前年度比) ②退学者数が減少したか(前年度比)	・多くの生徒の規範意識は高いものの、不足している生徒もいる。 ・生徒指導件数は微増だった。 ・退学者数昨年横ばいだが、転学者数は激減した。	A	・生徒の規範意識を一層高める必要がある。 ・生徒指導件数や退学者数を減少に向け、学校生活を軸にした生活リズムを定着させていく。 ・情報モラル(SNS等)の周知徹底を進める。		
	○多様な進路希望を踏まえた「先が見える進路指導」の推進	・多様な進路希望を踏まえたが、系統的・計画的な指導を行う	①各学年と進路指導部との連携による、効果的な指導(全体・クラス・個別)の実施 ②企業・上級学校訪問、進路講演会・学習会等により、キャリア教育の充実を図る	①学年と進路指導部が連携し、計画的に組織的に進路指導に取り組んだか ②進路希望が100%実現できたか	・学年毎に進路指導部と連携し、発達段階を踏まえながら「先が見える」進路指導を行った。 ・進路希望者の決定率が83%となった。	B	・学校全体で、系統的・計画的な進路指導を一層進める必要がある。 ・進路指導部を核として、一貫した「先が見える」進路計画を策定する。 ・進路先決定者を更に増やすためのきめ細やかな指導を進める。 ・進路希望実現率100%を目指す。		
3	○地域や関係機関と連携した教育活動の推進	・社会貢献活動(1年)・修学旅行(2年)・リカバリープログラム等の取組を向上させる	①「学習サポーター」派遣等による早稲田大学との連携を強化する ②近隣域と連携した社会貢献活動等を実施する	①学習サポーターの満足度が増加したか(昨年度比) ②社会貢献活動等を計画通り実施したか	・社会貢献活動、修学旅行、リカバリープログラムを着実に実施した。 ・学習サポーターの満足度が非常に高かった。 ・社会貢献活動を計画通り実施(3回)	A	・地域と連携しながら、社会貢献活動・リカバリープログラムを引き続き確実に実施する必要がある。 ・学習サポーターとの連携を行う。 ・社会貢献活動で地域への貢献をする。	平成29年2月14日	・新座高校は学校案内以外にも、日頃の教育活動をホームページで細目に情報発信し、その更新数や閲覧数にも表れているように、開かれた学校づくりを積極的に行っており、情報が手に取るように分かり、中学校にとっても、刺激になっている。 ・ボランティアでの近隣の清掃活動や黒目川土手の葉の花の種植えなど、地域への貢献は良い取り組みである。今後も続けていってほしい。 ・学校説明会などへの参加者の増加にも見られるように、新座高校への関心は徐々に高まっている。今後、一層の発展を期待します。
	○本校教育活動のタイムリーな情報発信	・開かれた学校づくりの取組を向上させる	①学校案内の改訂やホームページの逐次更新を行うとともに、様々な方法で(市広報や会報等の活用)学校教育活動を発信する ②授業公開や各種学校説明会等を効果的に実施する	①ホームページ更新やメール斉配信システムへの加入率が向上したか(昨年度比) ②授業公開や学校説明会等を計画どおり実施するとともに、参加者が増加したか(前年度比)	・教育活動のタイムリーな情報発信を様々な方法により行った。 ・ホームページ更新(250回)は昨年より(閲覧数695696回)。メール斉配信システムの加入率はほぼ横ばい。 ・授業公開(6回)学校説明会の参加者(814名、前年度比15%増)	A	・今後も教育活動のタイムリーな情報発信を行う。 ・ホームページ更新を引き続き積極的に行う。 ・必要に応じたメール斉配信システムも活用する。 ・授業公開や学校説明会も着実に実施。中学校訪問時に積極的に呼びかける。		
	○学校と家庭との連携の強化	・保護者やPTA等との連携協力により、学校の教育力を向上させる	①PTAの各専門委員会を核にして、PTA活動を活発に行う ②様々な機会を捉え、家庭への情報提供を行い、家庭との連携を一層強化する	①各専門委員会やPTA行事が計画通り実施されたか ②適切に情報提供がなされ、保護者の満足度は高まったか	・学校と家庭が様々な場面で連携強化できた。 ・各専門委員会やPTA行事を計画通り実施。またヨガ研修会を実施(2回) ・保護者アンケートより、HPの充実度(肯定83.1%)、メール配信システムの満足度(有効性)(91%)	A	・学校と家庭の連携強化を一層すすめる。 ・引き続き、PTA各専門委員会との連携を行う。 ・生徒の情報を保護者に適時適切に行う。 ・平成30年度西部地区高P連幹事校を見据え、PTAの体制を整えていく。		

